

# 香岐新聞

発行所 香岐新聞社  
(株式会社アットマーク内)  
〒811-5132 長崎県香岐市  
郷ノ浦町東船942-1  
TEL 0920-48-1860  
FAX 0920-48-1265  
購読料1ヵ月1,320円(税込)  
毎週金曜日発行  
代表 山内 武志  
編集長 高瀬 正世

## 早期解決向け1千頭を目標に 猫119頭に不妊去勢手術、12月に第2回予定

### どうぶつ基金

犬や猫の殺処分ゼロの実現を目指す公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市、佐上邦久理事長)は9月26、29日、本市で野良猫や多頭飼育の状態にある猫119頭に無料去勢不妊手術を実施した。手術会場の芦辺町芦辺浦の「旧しんぎょれん」の建物には、事前に申し込まれた猫が持ち込まれ、建物横で同基金から派遣された獣医師がスベイカー内で次々と手術。猫にはワクチンとF3駆除薬も投与され、手術後は元の場所に戻された。手術は香岐市からの申請を受けて実施され、29日には佐上理事長が藤原一生市長を表敬訪問。佐上理事長は「問題を解決するには、飼い猫も含めて全頭不妊手術をしないと、結局は元の木阿弥(もとのもくあみ)」と強調し、「継続して獣医を派遣する準備がある。市も市民もボランティアの力を活用して進めていきたいと思います。1千頭への目標は(手術を)「やっつけていきたーい」と述べ、野良猫の問題解決に向け、香岐市側の体制を求めた。



藤原市長を表敬した佐上理事長(左)

佐上理事長はさらに「公民館などで不妊手術の広げ方を考えてほしい」と述べ、野良猫の現状を「猫にも人にも優しい猫」というモデルを作り上げると、世界に誇れるケーススタディ(事例研究)になる。ぜひ前向きにやってほしい」と期待を寄せた。藤原市長は「市としての道筋、皆が幸せな未来が見えた気がした。市として体制と予算の研究をして、強化年間や月間のうちに集中してやらせていた方がいい。課題だからこそ課題もあるが、解決するモデルにもならないといけない」と思っている。

本市の猫の保護を巡っては2022年5月、長崎市NPO法人の香岐支部として結成していたメンバーが中心となり、市民有志の団体「香岐島わんちゃんおやぢ隊」(松崎純子代表)を設立。香岐保健所から依頼を受け、飼い犬や猫にミルクを与える「ミルクボランティア」をはじめ、ポスター制作や譲渡会を開催するなど、動物保護や適正飼育の啓蒙活動を行い、香岐での保護活動の先駆けとなった。

市は同年7月から、どうぶつ基金が行う「さくらね」無料不妊手術事業に参加し、同基金が発行する「無料不妊手術チケット」を使い、福島の協力病院でこれまで59頭の不妊去勢手術を実施してきた。その際、同おやぢ隊299が猫を搬送するなど活動をサポートしてきた。

譲渡会はこれまで14回開催し、計16匹の保護猫を新たな飼い主へ譲渡してきた。現在会員は16人で、活動を通じて会員以外にも他団体の賛同者の広がりを見せている。

今年も動物愛護週間(9月24、26日)期間中の23日、香岐の島ホールで動物愛護フェスティバルを市獣医師会と主催し、譲渡会のほか、保護犬、猫の現状を伝えるための啓蒙活動を行った。

野良猫の不妊去勢手術は、種処分や交通事故、病気で死ぬ命をなくす目的で行われてい

る。不妊去勢手術をした後に元の場所に戻し、地域の猫として生涯を守る「地域猫活動」(TNR)と呼ばれる。

本市でのTNRは、大村市のNPO法人がクラウドファンディングで寄せられた資金を

る。不妊去勢手術をした後に元の場所に戻し、地域の猫として生涯を守る「地域猫活動」(TNR)と呼ばれる。

表敬訪問に同席したお守り隊29の松崎代表は「行政とタッグを組めたことは大きく、市が主体となり今までと違い大きい部分で、市長に伝えられたのはありがたいと思



譲渡会もあった動物愛護フェスティバル

ご婚礼☆記念写真  
**STUDIO**  
赤木フォトサロン  
「写真は未来の宝物」  
**赤木写真館**  
47-0063